



No.35

学校図書館 司書だより

2019年12月



図書館クイズ

今年は、子どもたちが大好きなアンパンマンをうみだした「やなせたかし」の生誕100年にあたります。今も人気のアンパンマンですが、絵本の中に登場したのは、いつでしょう？

- 1、1988年、2、1973年
- 3、1969年

本と読書

私の読書の記憶

渡辺 由香

いちばん古い私の読書の記憶、それは幼稚園の先生に昔話(たぶん「つるのおんがえし」だったと思う)を読んでもらったこと。



その時の先生の顔は今でも私の記憶にある。その次の記憶、それは小学校

一年生になり担任の先生に読んでもらった「ひとまねごさる」。(今は「おさるのジョージ」という)この時の先生の顔もはつきりと覚えている。

その後、どうしてなのか自分にはわからないけれど、どんどん本が好きになり、学校の図書室で毎日本を借り、読書カードにどんどん本を記録して、金色のシールをたくさんもらえるのがうれしかった。

少し大きく

なり行動範囲が広がると、毎週のように自転車に乗って、市立図書館に通つ



た。木曾川の流れを

見ながら、本を読む

合間にサザエさんの

四コママンガを読む

のが楽しみだった。

家には、幼年世界名作文学全集が揃って

いて、何度も何度

も繰り返し読んだ。

しあわせの王子を

読んでは、なんて

悲しい話なんだろうと心を痛め、牛かいと山んばを読んで

自分の家の天井裏にやまんばが隠れている

ではないかとびくびくしていた。

中学生、そして高校生になる頃には学校

の図書室からは足が遠のき、駅前書店で

文庫本をたくさん買った。おこずかいの中

でやりくりしようと思うと、文庫本しか買

えなかった。いわゆる名作といわれるよう

なものその時代に読みあさった。

大学生になると、レポートのために否が

応でも学校の図書館に通うことになった。

そして今も毎日のように図書館に通って

いる。自分の過去を振り返ると、本とは切

っても切れない縁があるのだと実感した。

自分の手の届くところにいつでも本があ

り、自分の手でそれを選ぶことができた。

そういう環境にあったことがどんなに幸せ



だったのかということは今あらためて感じている。

本にはそれを読んだ頃の自分の記憶がよみがえる魔法のような力があると思う。

● 渡辺さんは、美濃加茂市図書館の司書になって二十五年。今年度より中央図書館の館長としてお勤めです。子育て中のお気に入り本は「わたしのワンピース」からすのパンやさん」だったそうです。今読んでいるのは、須藤昌子／著「死んでも床にモノを置かない。」片付け・掃除上手がやっている「絶対やらない」ことのルール」だそうです。図書館として、大切にされていることをお尋ねしたら、「誰もが気軽に立ち寄れる図書館であること」ということでした。

図書館クイズの答え

2、1973年 今から46年も前のことです。アンパンマンには、顔を食わせてあげたら力が出なかつたりと弱点も多いのですが、そこには「ほんとうの正義というものは、決してかっこうのいいものではないし、そしてそのためにならず自分も深く傷つくものです」という作者やなせたかしの強い願いがこめられています。1969年に初めて大人向けの読み物の中に登場しましたが、その後少し設定をかえて絵本に登場しました。1988年には、アニメ「それゆけ！アンパンマン」が放映されました。こんな作者のメッセージがあります。

「おそれるな がんばるんだ
勇気の花がひらくとき
ほくが空を飛んでいくから
きっと君を助けるから」



中央図書館では、1/4 から、中にどんな本が入っているのかわからない「お楽しみ福袋」が限定30袋貸し出されます。日頃出会えない本に出会えるチャンスです！(休館日 12/29 ~ 1/3 返却は返却ポストへ)

読書タイム

市内の学校・園・施設の
子どもと読書をのぞいてみました

太田小学校の図書館は、
昼休みになると本好きの子
どもでいっぱいになります。
気になる本があると、その
場で本の世界に引き込まれ、
没頭して読んでいる姿がた
くさんあります。しかし、

確かに本が大好きな子どもたちばかりで
はないというも現状です。

毎日、図書担当として、一生懸命活動している図書委員の子どもたちも、もっと多くの仲間にも面白さを知ってもらい、図書館に来てほしいという願いから、今年度の「図書館祭り」を企画しました。その中から二つの活動を紹介します。

「図書館ビンゴ」

「たくさんさんの分類の本を読もう」

図書委員からビンゴカードをもらい、本を借りると一回スタンプが押してもらえます。カードのマスは「お話の本」、「あ』で始まる題名の本」、「図書館のクイズ」など、低学年にも取り組みやすいような工夫をこらしたものです。たてよこ・ななめの一列がそろったら「ビンゴ」!、合わせて「3ビンゴ」になった



太田小学校

ら、図書委員特製のしおりがもらえます。工夫を凝らし、楽しく気軽に何度も図書館に来てもらえるようにしました。

「読み聞かせフェスティバル」
図書館祭りの初日の昼休み、地域の方やPTAのボランティアを募り開催しました。これは二十年も続いている行事です。読み手も、読まれる本も様々。子どもたちは聞きたいお話を予め選んでおいて、読まれる教室に出かけます。聞けるお話は二編。いつもの読み聞かせと異なりお話を選んで聞きに行けるのも楽しみの一つです。

図書館の入り口には、季節ごとに本の展示をしています。図書委員も全校のみんなに読んでほしいなあと思う本を、自ら選んで並べています。



二〇〇一年に結成されたPTAの読み聞かせボランティア「いろいろなえんぴつ」による月一回の大きな読み聞かせ会や、朝読書での職員とボランティアによる読み聞かせなど、子どもたちの豊かな心を育み、本好きにするための取り組みを、家庭や地域とともに、これからも続けていきます。

「あめだま」ベク・ヒナ/作 長谷川義史/訳
ブロンズ新社 ¥1500+税

「ぼくはめいたんてい きえた犬のえ」
マージョー・W・シャーマット/作 光吉夏弥/訳
大日本図書 ¥1200+税



パンケーキのだいすきな名探偵ネートは9歳の男の子。なかよしのアニーのかいた黄色い犬の絵が消える事件がおこります。ネートが事件のなぞを解く! あなたは犯人がわかるかな? シリーズ第1巻の本です。



Y.H.



ひとりぼっちで遊ぶドンドンが文房具屋で見つけた6つのあめだま。口にいとると、不思議! ソファ、犬のグスリ、ロウるさいパパ、天国のおばあちゃん、落ち葉...の本当の音が聞こえてきたのです。最後の一つは何も聞こえない...だから今度は自分から...作りこまれた人形と背景がつくる絵も素敵です。



T.S.

この本 読んでみて!

「子どもを上手にしかっていますか?」
しあわせな親子関係を作るコツ教えます
ロバート・J・マッケンジー/著 森かほり/訳
筑摩書房 ¥1400+税



著者は心理学修士号を持ちながらも、自分の「言うことを聞かない子」にイライラし、悩み...その経験から、子どもに優しく毅然と接しながらルールを教える方法を編み出しました。子育ての悩みは万国共通なんですね。子育てにイライラしているなら、読んでみませんか?



東図書館 K.A

「べんり屋、寺岡の冬。」 中山聖子/作
文研出版 ¥1300+税



お父さんの心無い一言に傷ついたお母さんは、家出をしてみました。小学5年生の美舟は不安な毎日を過ごします。同じ頃、親友の真帆が離婚して離れている父親に会いに行くと言いつつ出します。それに付き合い向かった二人に大変なトラブルが...。それぞれの本当の気持ちが分かり始める物語の終盤にはきっと心が動かされることでしょう。べんり屋シリーズ第三弾。



M.O

このコーナーで本を紹介しているのは、市内の学校司書3人と東図書館司書です。